

阿波の民話

《3339》

すると、舟の周りに火がボツ、ボツと燃えだし、ほの光に照らされて額に三角の紙を付け白い衣を着た者が次々に現れ、櫓にしがみついていた。ほして

「ひしゃくをくれ、ひしゃくをくれ」
って、低い声で言い続けた。

「早う、ひしゃくをくれ」
って、いがったんで、息子の一人がひしゃくを投げてやった。

再話・湯浅良幸
(徳島民俗学会会長)

(海陽町)

杓をくれ下

すると、背の高い亡者が折れそうな細い手で海水をいっばいくんで舟の中へザー、ザーと投げ入れた。三人は慌てて舟の海水を海へ出したが、海水をくみ入れる亡者が疲れると代わりの亡者が海水をくみ込んだ。

「ひしゃくをやるんでなかった」と、三人は悔やんだ。ほれから、漁師は海へ出るとき、ひしゃくを二本積み、一本の底を抜いたとそうな。
おーしま。

注釈

【いがった】怒鳴った
参考 「海南町史」下巻

声に出して読んでみよう

県内2団体が第2、3席

阿部自主防災会(美波)・障害者支援施設シース(阿南)

地域の優れた防災活動を表彰する消防庁の2015年度「防災まちづくり大賞」で、美波町阿部地区の阿部自主防災会が第2席の「消防庁長官賞」、阿南市上中町の障害者支援施設シースが第3席の「日本防火・防災協会長賞」を受けた。住民避難路の整備や、地域住民らが行っている防災教室などの取り組みが評価された。

消防庁「防災まちづくり大賞」

避難路整備や講習評価

美波町阿部地区は、避難訓練も積極的に行う、防災啓発活動を年南海トラフ巨大地震で、1回実施している。最大17・5級の津波が、阿部自主防災会は12年1月から、23力所の津波避難路や防災備蓄倉庫、高台の避難広場の整備に取り組み、津波シースは11年度か



【上】南海トラフ巨大地震による津波に備え避難訓練を行う阿部地区の住民ら。3月26日、美波町阿部【下】地元小学生らを迎えて開かれた防災教室。2015年10月、阿南市上中町の障害者支援施設「シース」



竹林の中で開かれたコンサート—阿南市新野町

竹林に響く調べ

10組披露 阿南でコンサート

新野竹林コンサートが17日、阿南市新野町の竹林で開かれ、約300人が自然の中で奏でられるハーモニーに耳を傾けた。竹で造った特設ステージに、地元の人やコーラス部「新野ラークス」や県内の和楽器

読んで学ぼう

家族と訪れた吉野川市鴨島町鴨島の主婦秋山恭子さん(55)は「風の音や鳥のさえずりと相まって響き渡る歌声

フジの花満開 匂い立つ 美馬



満開を迎えたフジ—美馬市穴吹町三島の佐藤さん宅

花紀行

庭は開放しており、佐藤さんは「今年は房の数が最も多く、色や匂いも最高。いつでも見に来てくださ」と呼び掛けている。(粟田俊哉)

×モ 佐藤さん宅へは穴吹駅から国道192号を西へ約2キロ。伊射奈美神社近く。問い合わせは佐藤理容所(電08883)(56)1133)。

阿波市市場町市場の県道沿いのり面、約3000株のシバザクラが色とりどりの花を咲かせ、

